

北海道再生!!

— 人に温かい道政 —

道政ニュース

高橋とおる

発行 2016年臨時号 No.51
高橋とおる事務所

〈自宅〉函館市美原4丁目2番14号
TEL・FAX 47-0867



函館地区反核平和の火リレー (7月29日)



第87回函館地区メーデー (4月29日)



北海道震災被災者街頭カンパ (4月30日)



北海道森づくりフェスタ (5月15日)



ナルク函館はまなす総会 (5月21日)



道南チャレンジ空手トーナメント (5月8日)



函館商工連盟第39回通常総会 (5月27日)



戦争をさせない道南総がかり行動 (6月4日)



民進党 辻元清美衆議院議員と



※この度の「道政ニュース」は、私の胃摘出手術などのために、臨時号とさせて頂いたいただきました。

次号は、「夏・秋号」と「秋・冬号」の合併号として発行したいと思います。また、昨年実施することが出来なかった道政報告会と終了後の交流会を年内に計画しております。

改めてご案内をいたしますので、多くの皆様の参加をお待ちしております。

参議院選挙と道政

七月一〇日投・開票の参議院選挙では、多くの皆様のご支援をいただき、民進党の徳永エリ氏、鉢呂吉雄氏の二名が当選、北海道の政治力学も少しずつ変化が生じてまいりました。

様々な課題を背負った北海道、とりわけ、一向に実感の湧かない北海道経済、TPP交渉の結果が及ぼす北海道農業や一次産業への影響、原発に依存しないエネルギー対策、空港の民営化や赤字鉄道網への対処など、取り組むべき課題は山積しています。

しかし、これまでの北海道に対する与党の対応は、利権を生む公共事業以外、必ずしも北海道の立場に立った政策を押し進めてきたと思えないのは私だけではないはずです。

選挙前には聞き心地の良い言葉を並べ、選挙後には手のひらを返すような政策を国会に提案することに、道民の皆さんも気付き始めた結果が今回の選挙だったと思います。

右に寄りすぎた今の与党と、その与党に頼りすぎる道政運営を道民の近くに引き寄せる、とりわけ、TPPの国会審議に対し、条件闘争で良しとする道の対応を農業関係者は望んでおりません。また、泊原発の再稼働については、三〇km圏内の自治体が望むように地元同意への範囲の拡大を道は国に要請すべきであり、赤字鉄道網についても、まず道の考え方を取りまとめ、主体的に国土交通省に訴えることが道民の思いであり、この様な様々な取り組みを与党にだけ任せられないというのが今回の選挙結果だったことを受け止め、道民の皆様と共に道政発展に手を携えて参りたいと思います。

北海道議会議員 高橋 亨

お礼

謹啓

皆様には、一つが
なくお過ごしのこと
と心からお慶び申し
上げます。

入院し、抗ガン剤三
剤によるD C S療法
を開始、毛髪、体毛
も抜け、食欲不振、
吐き気、倦怠感、下
痢などの副作用にも
悩まされましたが、
一二月の検査では、
胃のガン細胞が胃潰
瘍の修復痕のような
形状にまで回復し、
肝臓に六カ所転移し
ていたガン細胞も目
視で三カ所となった
ことから一時退院、
今年明けの一月から
外来で肝臓に重点を
置いた抗ガン剤治療
を続けて参りました。
今年の五月の検査
では胃の再発もまっ
たく無く、肝臓の方
に細胞もかなり小さ
くなったことが判り、
抗ガン剤治療を終了

して一ヶ月後に胃と
リンパ、胆嚢の全摘
出と肝臓の部分切除
の手術を行うことと
なりました。
六月一日に入院、
一三日に行った手術
は約一〇時間に及び
ましたが、その後の
経過も順調に推移、
摘出した胃のガン細
胞痕と肝臓の細胞を
病理検査した結果、胃・
肝臓、付随している
リンパ、静脈にもガ
ン細胞は無く、綺麗
に消滅していること
が判りました。

昨年から一年間の抗
ガン剤治療におきま
しても、道議会をな
るべく欠席すること
なく勤めさせてたい
いただき、北海道議会
経済委員長として、「北
海道観光の国作り計画」、
「道産食品の販路拓
大事業」、道産品の
アンテナショップ「ど
さんこプラザ」の仙
台店やシンガポール
店開設、新幹線開業
後の観光施策の推進や、
この四月から施行さ
れました「北海道小
規模企業振興条例」
の制定に努力させて
いただいた他、労働
行政では、季節労働
者対策、女性の活躍
推進、非正規労働へ
の対応など、そして「省
エネ・新エネ促進計画」
「幌延町深地層研究
計画」の今後の対応

などに取り組ませて
いただきましたが、
まだまだ十分とは言
えませんが、
手術が終わった今、
胃の摘出で食事の攝
取に戸惑いながらも
体調と相談しつつ、徐々
に議員活動を本格化し、
北海道、そして函館
地域の経済、雇用に
資するよう邁進して
参りますので、宜し
くお願いいたします。
改めまして、この
間のご厚情に深く感
謝し、ご報告とお礼
の言葉とさせていただきます。
本当に有り難うございました。

謹白

師からは手術は不可
能で余命一年・五〇
%の確立と宣言され
ましたが、その説明
の中で、札医大と徳
島大学が共同で治療
を行っていることを
聞き、すぐる思いで
治療を受けることに
いたしました。

早速、六月三日に

また、この間、今
年六月の手術を除き、

また、この間、今
年六月の手術を除き、

また、この間、今
年六月の手術を除き、